

実践報告資料

研究テーマ 『 明日もまた行きたいと思える学校づくり

～差別に気付き、解消に取り組める児童の育成をめざして～』

研究内容 【 (1)、(2)、(3)、(4) 】

学校名 (養父市立広谷小学校)

<p>ア 人権教育としてのねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの自尊感情を高め、自己肯定感をもつことができる子どもに育てる。 ・差別を見ぬき、差別しない、許さない心の育成や人権尊重の生活スタイルを身に付けさせる。 ・共に生きていく平和で住みよい社会づくりに貢献する子どもに育てる。 				
<p>イ 研究の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動や自己理解の学習に取り組み、児童の自尊感情や、自己肯定感を高める。 ・「ほほえみ」や自作資料などの効果的な活用法を考え、対話的な授業を展開することで、人権尊重の生活スタイルを身に付けさせる。 				
領域	教科	道徳 (特別の教科 道徳)	特別活動 学級活動	総合的な学習の時間
指導者	6年担任	2年担任	推進教員	4年担任 外部講師
実施日	10月14日	10月5日	7月13日	6月13日・14日
取組名	みんなで楽しく過ごす ために	カモノハシ	どうしよう	手話について知ろう
目 標	互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。	違いによって排除するのではなく、お互いの違いを認め合おうとする心情を育てる。	困ったときには自発的に援助を求めると・困っている人の存在に気付き、援助することの大切さを知り、適切に対応しようとするスキルを身に付けさせる。	自他の存在を認め、自分も相手も大切にす る心を育む。 聴覚障害者は、どのような手段で気持ちを伝え合っているかを理解させる。
資料名	「伝えにくいことを伝える」(光村図書)	「カモノハシ」 (「いのちといじめを考える授業プラン50」)を参考にした自作教材	「ねえ聞いて」 (兵庫県立教育研修所いじめ未然防止プログラム)	/
指導内容 や指導方法の工夫等	具体例を出し、ロールプレイを通して感じ方の違いを確かめる。そして、相手に正確に伝わり、冷静に受け止めてもらえるような伝え方をグループで考える。グループで考えることで多様な考え方を共有することができる。	お互いの違いを認め受け入れようとする態度を育てる。 違いによって阻害されている当事者の気持ちに寄り添えるように、自作教材を用いる。動画やお話を用いることにより、より主人公の気持ちに迫りやすいようにする。	実際の学校生活でありそうな困った場面についてどうすれば良いかを考え、人権感覚を高めさせる。 グループワークを取り入れ、話しやすい雰囲気づくりをする。 動画や画像の視聴を取り入れることで、より具体的に考えられるようにする。	まず、聴覚障害について学び、その情報伝達手段としての手話を体験してみるという学習の流れを設定する。 社会福祉協議会と連携し、地域で手話を教えておられる方を講師としてお招きする。